

<指導の実際>

①教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・ScTN、スクールダッシュボード、レディネステスト、業者テスト、パワーアップ問題

- スクールダッシュボードから自己調整能力が減少したことを把握できた。
- スクタンの結果から、探求の学びの項目の数値が減ったことを把握できた。
- 学校生活の充実感と成長では、2学期はばらつきがあり、3学期は成長の実感の数値が低く教師の見立てとは異なる児童の把握につながった。
- 様々なデータを使用したけど、どのデータがどんなことが言えるのかを精選し、深い読み取りができるようにする。

②指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手立て② 導入でのパワーアップ問題と既習の確認

前時までの学習の定着を図るために、前時の問題を短い時間で取り組ませる。思考を振り返らせ、つまづいている児童を把握し本時につなげられるようにする。



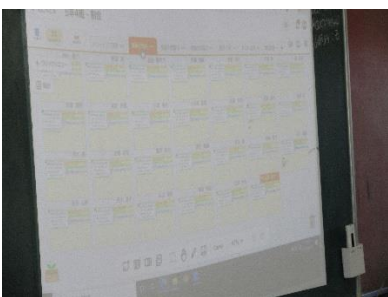
手立て③ 発問の吟味

思考が深まるように、「なぜ」や「どうして」をキーワードにした発問を行う。立ち止まって考えさせたり、友達と考えを共有させたりすることを通して、思考が深まるようにする。



手立て④ 対話する場の設定

色々な考えに触れ、問題や考えを多面的に考えられるように、対話する場面を意図的に設ける。目標や学び方を自己決定したり、考えを共有したり時間を設定する。



手立て⑥ ルーブリックを生かした自己成長を促す場の設定

本時で身に付けてほしい内容と目指すことが一致し、深い学びにつながるように、ルーブリックを設定する。振り返り場面での自己評価も行う。



手だて⑧ 学習スタイルの選択と個に応じた指導

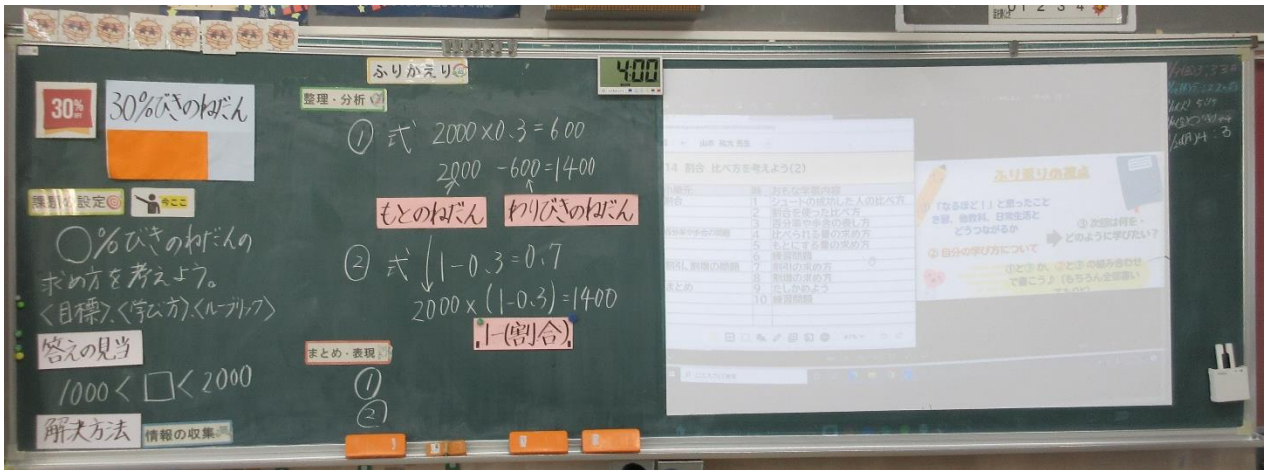
自分に合った学び方をして、思考を広げるために、学習スタイルを自分で決定する。⑦「一人で考える」、⑧「友達と考える」、⑨「先生と考える」のいずれかを学ぶ内容に沿って選択させる。

単元の指図書(10時間扱い)	本時(7/18)	学習の目標	学習活動	学習の成果	評価	評価の観点	評価の方法
1. ○プロローグ	「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	○プロローグ：読者の立場に「自分」を置き、登場人物の気持ちや関係性を捉える。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。
2. ○昔の算数を学ばせ、算数を学ばせたい。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。	①「シート」を読み、人々の思いや気持ちのつながりについて話し合う。手紙を読み、自分と関係のある人について話し合う。2つの数量の関係を比べるという問いの課題を提示する。

手だて⑨ 学習スタイルを意図的に設定した単元計画

1時間の学習のねらいと照らし合わせ意図的に構成する。一斉なのか、協働なのかも位置付け、意図的な単元計画を行う。

<授業後の板書>



<協議会>

授業者の意図・反省

- 実生活でマフラーを買ったと想定して問題を提示し、絵図、量感を重点に置いて、より「本物の学び」になるようにした。
- 課題は「●%」というどの問題でも解けるような書き方をした。
- 整理分析の練り上げの部分をもどのようにしていくか迷った。まとめもどのような言葉を使えばいいか。
- 児童に対して「どうして」「どのようなこと？」などを意識して発問した。

研究協議(○成果 ●課題)

<「スクールダッシュボード」グループ>

- ScTN や学びメーターの結果を把握することで、児童のつまずきと意欲が明確化されるので、授業に生かすことができる。
- どのデータをどのように見るのか、様々なデータの見方をもっと学び、生かす方法を探る。
- 配慮が必要な児童だけでなく、中間層の学力をどう伸ばすかという視点も研究していく必要がある。
- 教師の負担になりすぎない形でのデータ活用の工夫が課題として挙げられる。

<「深い学び」グループ>

- 割引(%)などつまずきやすい内容を、図・ICT・発問で丁寧に押さえた授業構成がよかった。
- 児童同士で考えを出し合い、「なぜ0.7%なのか」と子どもたちが問い直す場面が深い思考につながっていた。
- 日常生活と結び付けた題材設定により、内容理解への納得感が高まっていた。
- ループリックの目標を決定するのに時間がかかってしまった。
- 〇%引きと〇%の考え方の違いを確認してもよかったのでは。2つの導き方が本当にあっているか話し合いに出してもよかった。
- どこまでを全体で共有し、どこから個別・発展に委ねるかの判断が課題である。

明日の授業に生かしたい点

- 図やICTを活用し、数量関係を視覚的に捉えられるようにすること。
- 「正しいかどうか」「なぜか」を問い直す発問
- アンケートや学びメーターを継続的に見て、個別のかかわりに生かす。
- 日常生活と結び付けた導入・まとめの工夫

指導講評

教育研究所 清水武蔵先生

- できない児童に注目しがちだが、中間層に注目して指導することも大切。
- 「600円=30%」と「なぜ0.7%なのか」子供から質問が出たことがよかった。
- 出来る子どもなどんところで困っているか。わかったつもりでも言語化できなかった。児童が計算したら600円となったけど、50%OFFは1000円だからおかしいと気付いた児童がいた。
- 探究のサイクルでは、教科の授業に当てはめるのはどうかと思っている。練り上げは整理分析か迷っている。探究のサイクルがあることで、自由度を妨げている可能性がある。
- スクールダッシュボード、ScTN から自己調整の部分から失敗して立ち上がるような経験が少ない可能性がある。テストから施行判断表現のほうが、点数が高い。失敗した後にどうするか考える経験が少ない可能性はある。

教育研究所 秋永圭子先生

「深い学び」

- 子に応じた指導、支援の増強が必要。アンケートと実際に見ている姿と同じ。データ分かることを分析し、実践し、協議することが大切。
- 今までは、児童の実態が先生の主観が多かったが、データと主観の2観点から分析することが出来る。元気度や探究の学びが下がってきたり、上がってきたりした変化が見られたときに手立てを講じることが大切。